



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

地域人材ネット

地域と協働する高校への改革支援を通じた地域創生

浦崎 太郎 (うらさき たろう)

大正大学地域創生学部 教授



○ 登録者情報

所在地

東京都豊島区

略歴

【職歴】

1989年4月～2017年3月 岐阜県立学校教諭(中学校教諭1年・県博物館職員4年を含む)

2017年4月～2020年3月 大正大学地域構想研究所 教授

2020年4月より現職

【役職】

2015年 文部科学省 中央教育審議会 生涯学習分科会 学校地域協働部会 専門委員

2018年5月～ 文部科学省 高等学校教育改革の関するアドバイザー

2019年1月～ 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」企画評価会議 座長

2019年9月～ 全国高校生マイプロジェクト実行委員会 顧問

【実績】

2004年 居住地では、市民協働に力を入れる岐阜市に呼応して「岩野田北まちづくり協議会」の設立に参画。勤務先の岐阜県武儀郡洞戸村(現・関市洞戸)では、総合学習を支援するNPO法人(洞戸村ふるさと塾)の設立に参画。

2010年 モデル3地区と県博物館による「岐阜県「地域発！ふるさと学習」研究協議会から文部科学省「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究」に応募し採択された研究企画「「地域発！ふるさと学習」に対する大人の意識変容要因に関する実証的研究」において企画や運営を担当。

2013年 勤務先の可児高校において、「地域課題解決型キャリア教育」「アクティブラーニング」等を柱とする学校改革事業の実務担当者として企画や運営を担当。

2014年 高校と地域の一体的な再生をめざす全国組織「SCHネットワーク(Super Community High school Network)」の立ち上げに参画。

2019年11月 総務省「過疎問題懇談会」において「過疎地域の小規模高校をどう位置づけるか」について講義

著書・論文等

【単著】

○「教育再生は大人の関係性回復から」博進堂文庫29号(2005年12月)

【共著】

○「アクティブラーニング実践Ⅱ～アクティブラーニングとカリキュラム・マネジメントがよくわかる」(共著)産業能率大学出版部(2016年9月)・・・第2章で「高校と地域の連携・協働」について詳述。

【連載】

○大正大学出版会 月刊誌『地域人』の連載「高校連携で始まる人材循環」を担当(2017年9月～)

【主な論文】

○(財)2001年日本委員会の懸賞論文「21世紀の教育を考える」で優秀賞受賞・タイトル「日本再生は確かな技法に基づく小学校区の絆づくりから」(2004.2)

○浦崎太郎(2013)「地域医療と教育学：地域素材と教職的技法の融合が開く未来(特集地域医療への学際的接近)」、『月刊地域医学』27(10),pp.880-883,地域医療振興協会。

○浦崎太郎(2011)「文化振興の担い手育成に関する実証的研究～1.アウトリーチ事業の立ち上げ～」岐阜県博物館調査研究報告,32:岐阜県博物館

○浦崎太郎「地域を日常的な学びの場に変える「学びのデザイナー」育成事業」第17回研究発表大会資料. 仙台市, 2010-02-25/26. 全国科学博物館協議会, 2010,pp.47-52. http://jcs.jp/wp-content/uploads/presentation/case17_5.pdf, (参照2020-01-01)

○ 地域と協働する高校への改革支援を通じた地域創生

取組の内容

高校教員時代には、「地元自治体や地域諸団体により提供される、まちをよくしていこうと頑張る大人や大学生が活動する場」に高校から生徒を送り込み、どんな地域課題があるのかを一緒に学び、どう解決していけばよいのかを一緒に探る体験をさせる仕組みを構築。大学教員となってからは、その必然性や必要性について高校教育改革や地方創生と理論的にも有機化しながら、全国各地の高校や自治体等に導入支援。また、支援先の協力を得て、自身が構築した理論を検証し、さらに精緻化。その成果を文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」や総務省「過疎問題懇談会」において提言・反映。近年は特に、高校生の多様な興味関心と地域の課題・素材・人材等を効果的にマッチングする「地域・学校魅力化コンソーシアム」の設立支援に力を入れている。



実績

支援先の受賞・表彰実績(2017～19年度:一部重複)

- ・ふるさとづくり大賞(総務省)・・・1件
- ・キャリア教育に関する文部科学大臣表彰(文科省)・・・2件
- ・文部科学大臣優秀教職員組織表彰(文科省)・・・1件(地域連携で)
- ・「学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰(文科省)・・・1件
- ・キャリア教育推進連携表彰(経産省・文科省)・・・1件

工夫した点や苦労した点

高校の設置者は主に県、高校生が活動する場を提供しうるのは主に市町村、という壁を超えるのが鍵です。制度的に、高校とは教育課程(授業)の執行機関であり、県が権限を行使できるのは「校内・授業時間内」のみ、「校外・授業時間外」は県の管轄外である点に理解が及べば、市町村が地域創生の担い手として、域内に所在する高校の生徒を活用できる道が見えてきます。固定観念を持っている行政職員等に、その点をキチンと伝えることに苦心しています。

ひとことPR

高校との意思疎通ができていない自治体では、高校生が伸び伸びと挑戦でき、愛郷心や課題発見・解決能力の高い次世代が群出しています。できていないと、次世代の流出は激しくなるばかり。人づくりのリアルや投資効果に関する理解を深め、子供や若者を真ん中に置き、自己変革を遂げる覚悟を決めた自治体を支援したいと思います。

○ 参考

取組分野の分類

登録者の取組を12の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

1.地域資源を活用した地域経済循環	2.まちなか再生
地場産品発掘・販路開拓	中心市街地活性化
6次産業化	空地・空家・空きビル・空き店舗等対策
経営資源の引継(事業承継等)・起業支援	商店街活性化
地域中核企業等の支援	その他
その他	
3.生活機能の維持	4.環境保全・SDGs
地域医療・福祉	分散型エネルギーシステム
地域交通	地球温暖化対策
集落機能の確保	廃棄物・リサイクル対策
その他	その他
5.防災減災・危機管理	6.観光振興・交流
建築物耐震化・長寿命化	DMOとの連携
地区防災計画	インバウンド対応
BCP	民泊・農泊
避難所運営	地域おこし協力隊の推進
感染症対策	その他
その他	
7.関係人口の創出・拡大	8.移住・定住促進
滞在・活動の場づくり	起業・事業承継等支援
地域おこし協力隊の推進	空地・空家対策
地域と関係人口の協働	地域おこし協力隊の推進
その他	その他
9.少子化対策、子ども・子育て支援	10.地域づくり人材の育成・教育
結婚・出産・子育て支援	人材研修
働き方改革	○ ふるさと教育
子どもの貧困対策	○ 地域と教育機関の連携(高校魅力化・域学連携等)
その他	その他
11.自治体経営イノベーション	12.シティプロモーション・地域PR
財政マネジメント(公共施設管理・公会計整備)	地域プランディング
官民連携(PPP・PFI)	メディア活用策
自治体間連携	効果の把握・評価
住民参加	その他
その他	

関連ホームページ

大正大学地域構想研究所	https://chikouken.jp/
taro4031(個人サイト)	https://taro4031.jimdofree.com/

連絡先

メールアドレス	[アットマーク]		
---------	----------	--	--

※メールを送る際には[アットマーク]を『@』に変えてください。